



# よこと館だより



Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

## 理事長閑話 うめ草③⑥



### ～風林火山～

前回、私の座右の銘「中庸」について書かせていただきました。この言葉は私が自らの行動を判断する際、あるいは思考する際の基本的なスタンス、在り様だと思っております。シンプルに言えばバランス、それも「真・善・美」の価値を見据えてのバランスです。

今回は、もう一方の脇に置いている格言、「風林火山」のご紹介です。歌謡曲、武田節の中で吟じられる詩吟は私の持ち歌（吟）ともなっています。この言葉は「孫子」の中に出てくる言葉です。孫子は「孫子の兵法」とも呼ばれ元々は紀元前6世紀、中国の春秋時代に活躍した兵法家孫武が記したものとされています。「彼を知り、己を知れば、百戦して危うからず」という言葉が有名です。相手の正確な情報収集ばかりではなく、百戦して客観視し、見つけ出し、自省的に総合的に判断すれば勝てる相手とだけ戦う、故に「百戦して現代でも危うくなく」という意味です。孫子は2500年以上前の書物ですが、その内容は原書の戦争編にある一節を読み下すと以下の通りです。

「故に、其の疾（はや）きこと風の如く、其の徐（しず）かなること木の如く、侵掠（しんりやく）するは火の如く、動かざるは山の如し」  
要するに正確、的確に状況を判断して、常に迷わず「最善の行動」を選択せよ、との教えです。実に、明確で、具体的な行動を、求めています。大切なのは時期を外さず、判断を過つことなく、その行動を決めろということです。だからこそ常に現状の把握と判断が出来る自分、の在り様が大切なのです。リーダーは、瑣末な事象に惑わされることなく大局を見極める事の大事さを示しています。

私の理事長としての役割は状況に応じて的確な判断が出来ること、そして熟慮断行心がけています。そう“Simple (life) is my-way”です。

理事長 橋本正明

## 事業本部長メッセージ

新緑の爽やかな季節、改正福祉法が施行され初めての会計監査人監査を無事終わりました。

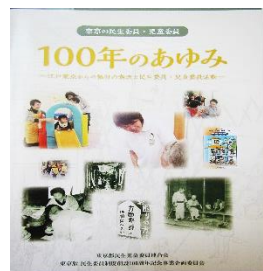
さて、昨年は大正6年民生委員制度起源の年から100年を迎え、今年には東京の民生委員制度誕生100周年の記念の年です。法人内では橋本富美子顧問、高橋久雄常務が長年この地域の民生・児童委員を務められ、一昨年は囀らずも私が委嘱をお受けすることになりました。ここは、東京の三多摩地区の中心、立川市の中でも多摩川に近く緑の多い自然豊かな反面、「浸水想定区域」「土砂災害警戒区域」で河川敷周辺居住者や一人暮らし高齢者、災害時の避難行動要支援者等への見守りや注意が必要です。

特に最近では地域に関心を持って出かけることにしていますが、下の写真は多摩川の樋門工事の様子です。大正7年から続く



<樋門工事の様子 平成 30.5.15 現在>

整備も今年には“多摩川改修百年”奇しくも東京民生委員100周年と重なっています。『昔から好き、これから好き。』貝殻橋のポスターには、地域への思いが託されています。未来をつくる子ども達や高齢者等すべての人が安心・安全に暮らせる地域共生をめざし、微力ではありますが生まれ育ったこの地域に寄り添えるよう努めてまいります。



冊子 「東京の民生委員・児童委員 100年のあゆみ」

保育事業本部長 稲永勝行

## 事業本部情報

### ♥児童事業本部♥

毎日暑い日が続きます。今年は春が短かっように思います。新緑のすがすがしい季節をあまり感じることもなく、もうすぐ梅雨入りです。もうすぐ「日々の善行」という言葉があります。私たち社会福祉に携わる者として日常生活では当たり前のように日々過ごしております。これは、中々できるものではありません。意識して良いことをする事を心掛けないととても難しいものです。私は時々ズボンの右ポケットにコインを入れて置き、良い事(善行)を行うとそのコインを左のポケットに移すことをしています。家に帰って着替えるときに左ポケットにコインがあると、今日は良いことをしたんだという気持ちになります。日々の善行に心掛けたいものです。さて、7月7日(土)「チャリティーマーケット」、恒例になりましたバザーを開催いたします。この収益金は来春児童養護施設を築立ち自立する子ども達の支援のための費用と、そして障害福祉事業の新たな事業展開の充実を目的として行います。地域の大勢の皆様のご協力のもとお品物のご提供や当日のボランティアの方々のご理解とご支援をいただきながら実施しております。どうぞ、皆様もご家族そろってご来場いただければ幸いです。お待ち申し上げます。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(児童事業本部事務局長 櫻井 壽)

### ♥保育事業本部♥

多摩都市モノレール万願寺駅下車4分。メイン通りから一步入った静かな場所のこぎり屋根がシンボルの万願寺保育園があります。施設のコンセプトはイタリアの街でみんなが集う『ひろば』を大切にしています。小さな『いえ』が『ひろば』を囲む『こどものむら』のよりのな保育園でありたいと願いが込められた設計です。室内は多くのガラスから優しい光が入域に開かれた保育園をめざし、自由にのびのびと育っていかれる居場所として、地域に幅広い年齢層の方々とも子ども達が楽しむ時間を共有できるようにプログラムを工夫しています。開設より16年。職員は当初のコンセプトを大切にしながらお仕事させていただいてまいす。地中海を感じさせるレモン色の園舎とオリーブの木が3本。笑顔が可愛いお子さま、いつも明るく楽しい職員が皆様をお出迎えいたします。どうぞ、お立ち寄りください。イメージは地中海ですが園名は万願寺なので地域の方から「お寺さんですか?」「お寺はどこにありますか」など問い合わせがありました。

(万願寺保育園園長 長谷川育代)

### ♥高齢事業本部至誠ホーム♥

至誠特別養護老人ホームは昭和52年に開設し、はや41年間が経過しました。その間、1300人余りの方にご利用いただきました。また、至誠ホームの多くの職員が高齢者福祉の第一歩を踏み出した場所です。一方で、建物は頑丈でも内部は老朽化が目立ちます。最も中工事のポイントは老朽化した給排水管の更新とアメニティの改善です。終了後は居室がすべて二人部屋と一人部屋になり住環境(現在は4人部屋と2人部屋)が劇的に改善されます。そして、居住費は多床室のまま据え置き、中長期計画で方向性が示されたセーフティネットとしての機能を果たすべく、費用負担が少なく利用できる施設としてリニューアルとなります。この工事は、たくさんの協議を重ねて、最終的にアウリンコの開設と一体的な計画としてたどり着いたものです。今は、工期の半分が過ぎたところで、まだゴールは遠く感じています。多くの方々のご支援と期待を受けて完成に向けて突き進んでいきます。

(至誠特別養護老人ホーム園長 鈴木 篤)

## 本部事務局だより

ガバナンスの意味を正しく理解して使われていない言葉です。しかしながらこれまた言葉の意を正確に理解して使われていない言葉です。企業不祥事などの事件が起るたびに「コンプライアンスを徹底します」と言いますが、いったい何と何が徹底するのでしょうか。コンプライアンスを「法令順守」と極めて狭く解釈し使用する横文字を使わずとも、そのまますべて法令順守とすれば良いのですが、わざわざ横文字にするにはそれ以外の理由があるからです。本意は「法令等及び社内諸規程・諸規則を守る」言い換えれば「法令だけではなく、自分で決めたい法人内(組織内)のルールを守る」もっと簡単に言えば「自分で決めたこと、自分で守る」という極めて幅の広いことを意味しています。なぜ、このような言葉が出てきたのか?というと、法令等でガチガチに縛られても網の目を潜り抜ける会社(法人)が多いからです。そこで新社会福祉法では「内部管理体制の基本方針」を理事会で決め、これに基づいて①経営管理の諸規程と体制、②リスク管理の諸規程と体制、③コンプライアンスの諸規程と体制を自ら構築させ、自ら決めたことは自ら守らせようとしています。これからの行政の監査は、これら3点を監査しようとしているわけです。

(法人事務局長 野島忠幸)

<編集後>紫陽花の花が日に日に色付き始めました。もう間もなく梅雨入りですね…。ジメジメした天気は心をも曇らせがちですが、色とりどりの紫陽花の花を見ていると、何だか一瞬、気分も晴れやかになる気がします。